

京丹波町における須知高校のあり方懇話会（第1回）

会議概要

日 時 平成27年10月29日（木） 午後7時30分～9時55分

場 所 京丹波町役場 議場

出席委員 井戸委員、江本委員、上田委員、杉山委員、谷山委員、長谷川委員、平田委員

1 開会

2 委嘱状の交付

井戸委員（代表受領）

3 町長あいさつ

- ・生徒減少期における具体的な検討がされる中、須知高校は本町のまちづくりを考える上で欠くことのできない京都府の施設となっている。全国的にも「地域創生」による活性化施策が進められる中、これを追い風として町と学校が共に力を合わせて進んでいかなければならない。皆様にはそのためのアイデアやヒントなどをいただき、須知高校が「行きたい学校、行かせたい学校」となるよう様々なご意見をいただきたいと考えている。

4 委員等紹介（自己紹介）及び座長の選任

- ・事務局より、本懇話会設置要綱について概要説明。
- ・委員からの推薦により、上田秀男委員が座長に就任。また要綱上の職務はないが、座長不在の際の職務代理を、座長指名により、平田敬一委員が就任。

5 京丹波町における須知高校のあり方や活性化対策について

※委員提案により、要綱第6条に基づき須知高校教職員（2名）の同席を許可する。

※事務局より、本懇話会の趣旨説明。本日の進め方について、まず須知高校の現状、中学校における現状等を報告いただき、意見交換に入る提案をさせていただく。⇒委員了承。

①長谷川委員より、須知高校の現状と課題等について説明。

②平田委員より、中学生進路傾向と須知高校への期待について説明。

③事務局より、京都府における府立高校のあり方検討会議の概要説明（方向性のまとめ抜粋）

④質疑及び意見交換

委員：地の利（京大農学部との連携、酪農地帯、食のまちなど）を活かした教育の実践が望ましいと考える。

委員：積極的な選択の中に須知高校が含まれていけばいいし、SAコースの実績といったものはその選択肢を広げるものである。また入学後のケアを十分に指導いただけることや、食品科学科での資格取得やスペシャリストの育成など、どう特色を出していくかが大事ではないか。あわせてきめ細やかな指導が出来る人的配置も出来ればよいと思う。

委員：須知高校を選択する際、周囲の生活環境（ものづくりや酪農など）があり、地元はその学科があったことが大きな要因であった。

委員：今の高校生は守られている、恵まれている印象をもった。以前は須知高校への憧れとといった中で選択してきた時代もあり、部活動等を通じて人とのつながりが意欲につながり、進学につながった印象を持っている。（部活動の充実は指導者にも左右される）

委員：引き続きご意見いただく中で、検討していきたい。

委員：（卒業生の方は）自信を持って高校選択されている印象。中学生にも聞かせる機会がもてればよい。

6 今後のスケジュールについて

- ・事務局より、資料に基づき説明。次回は卒業生、保護者等の立場から意見をいただき、意見交換を進めていくことを確認。
- ・次回懇話会について、11月19日（木） 午後3時（若しくは7時30分）を予定。
- ・事務局より、傍聴に関する考え方を説明し、公開していく方向で了承を得る。

7 閉会（平田委員）